

施策の柱1 持続可能な社会をけん引する人づくりと県民総ぐるみによる運動の展開

本県では、令和3年3月に策定した「第4次山形県環境計画」において、「持続的発展が可能な豊かで美しい山形県」を構築していくには、持続可能な社会や環境を支える「人づくり」が全ての基盤であるとして、施策の柱1を全体に共通する施策と位置付けています。

環境問題を「自分ごと」として捉えるための意識改革・行動変容の促進を図るため、気候変動を防災や健康など自らの命や暮らしにも関わる身近な問題と関連付け、全ての世代の県民一人ひとりが、環境に配慮した行動ができるようライフステージを踏まえた環境教育・環境学習を推進していく必要があります。

特に、2050年カーボンニュートラル社会の実現に向けた取組は時代の要請であり、全ての県民がその趣旨を理解し、県民総ぐるみによる運動として取り組むとともに、次代をけん引する若者の育成や若者が活躍できる環境づくりが求められています。

1 現 状

(1) 本県における環境教育「人づくり」

- 「カーボンニュートラル」とは、大気中に排出される二酸化炭素などの温室効果ガスの量から、森林等が吸収する二酸化炭素（CO₂）などの温室効果ガスの量を差し引いて、全体を実質ゼロにすることです。
- 令和3年度に県民のカーボンニュートラルの認知度を調査したところ、「言葉も意味も知っている」と回答した割合が29.4%、「言葉は知っているが意味は知らなかった」と回答した割合が23.4%、「言葉も意味も知らなかった」と回答した割合が45.6%という結果になりました。

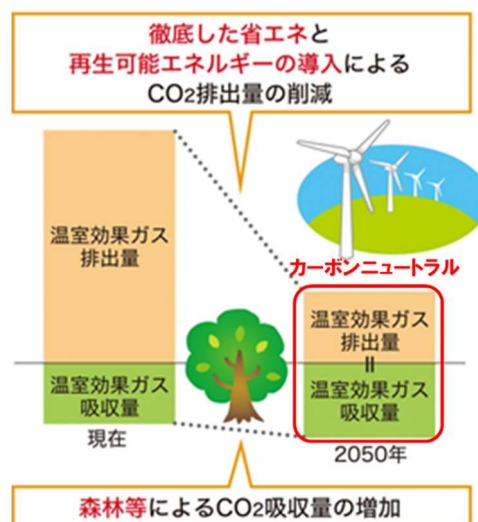
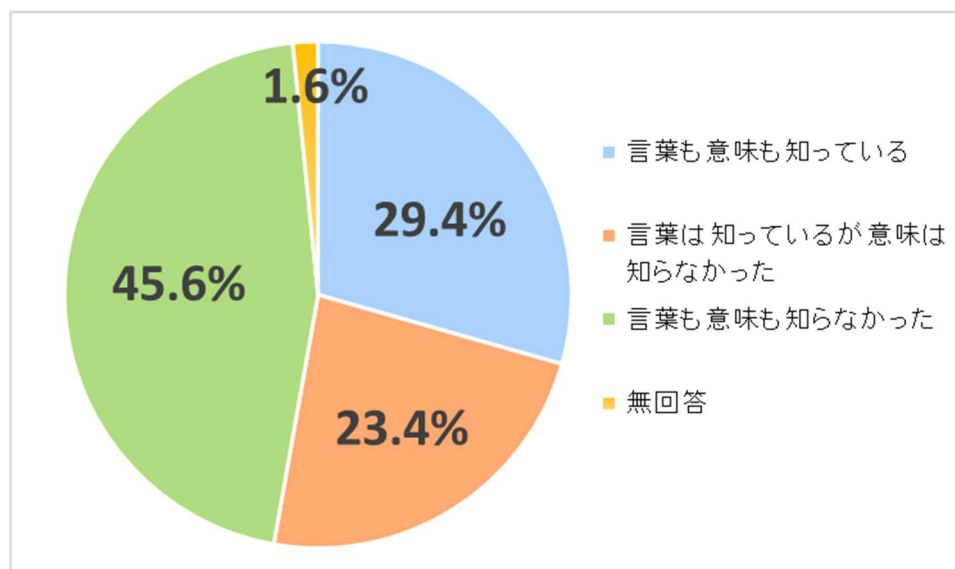
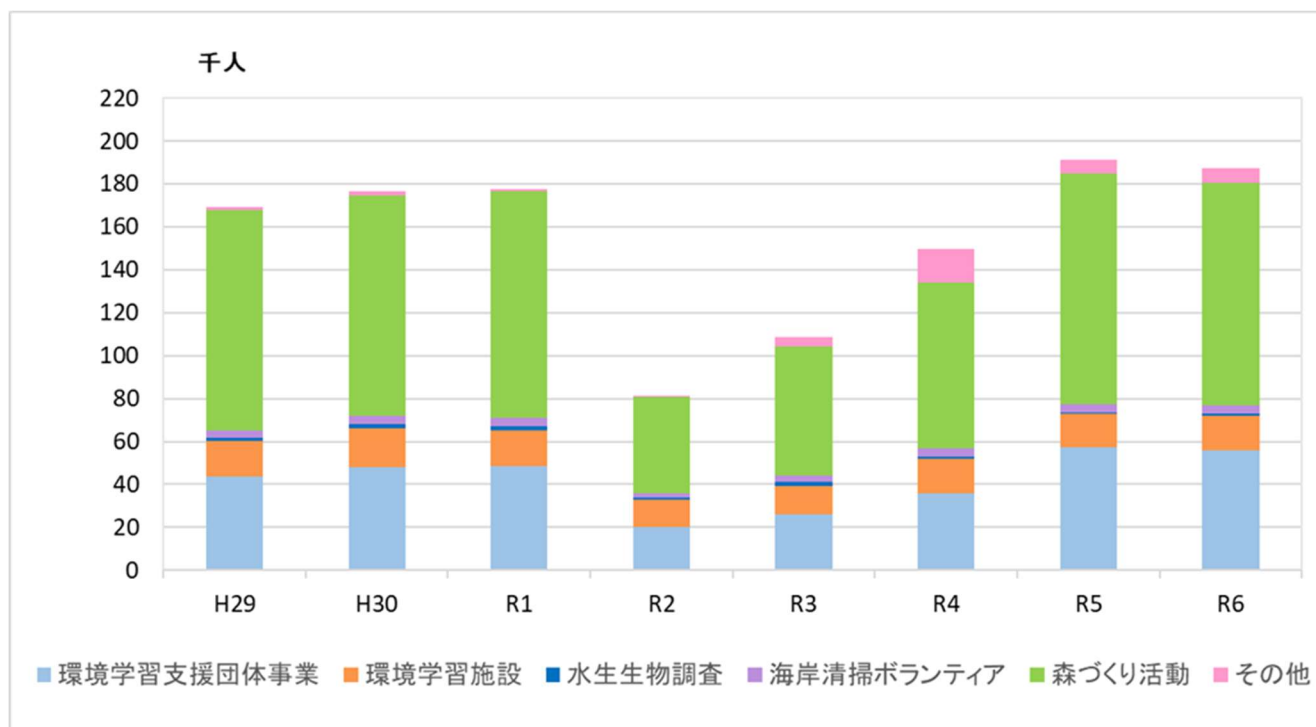


図1-1 「カーボンニュートラル」の言葉と意味の認知度（令和3年度）



- 令和6年度の環境学習・環境保全活動への参加者数は、約18万7千人で、令和5年度と比較して約4千人減少しました。前年度より参加者数が減少した主な要因として、森づくり活動への参加者数の減少等が挙げられます。

図1-2 本県における環境学習・環境保全活動への参加者数の推移



2 取 組

(1) 環境問題を「自分ごと」と捉えるための意識改革・行動変容の促進、県民総ぐるみによる運動の展開

ア カーボンニュートラルやまがた県民運動の展開

- 県民一人ひとりが、身近なところから、できることから、カーボンニュートラルに向けたアクションにチャレンジし、「豊かで美しい山形県」を県民総ぐるみで将来に継承していくため、令和4年より「みんなの地球（あす）のためにチャレンジ！カーボンニュートラルやまがた県民運動」を展開しています。同年、県民運動の推進組織として「カーボンニュートラルやまがた県民運動推進会議」を設立し、毎年6月に県民運動推進大会を開催しています。



カーボンニュートラルやまがた県民運動推進大会

イ 県内各施設におけるカーボンニュートラル広報啓発巡回展示の実施

- 「ゼロカーボンやまがた2050」の実現に向けて、県民の皆様に対して「カーボンニュートラル」という言葉や趣旨について理解を促し、省エネルギーへの取組や再生可能エネルギーの導入といった具体的な取組への理解・協力を呼び掛けることを目的として、県内4市町村（新庄市、戸沢村、長井市、西川町）の庁舎や県立図書館といった公共施設5会場に特設の展示ブースを設置し、啓発ポスターやリーフレット、紙製クリアファイル等を配置し、普及啓発を実施しました。

ウ カーボンニュートラル「標語」「ポスター」コンテストの実施

- 「ゼロカーボンやまがた2050」の実現に向け、県民の方々にカーボンニュートラルについて学び、考えていただくとともに、作品を通してカーボンニュートラルを広く周知するため、カーボンニュートラル「標語」「ポスター」コンテストを実施しました。
- 令和6年度は、「カーボンニュートラル実現への思い」をテーマに「標語」と「ポスター」を募集し、小学生の部、中学生の部、一般の部合わせて644点の作品の御応募をいただきました。

エ 公用車への次世代自動車導入によるカーボンニュートラル普及啓発

- 県が自ら排出する温室効果ガスを削減するため、令和6年度は、公用車として電気自動車6台及び水素自動車1台を県庁及び各総合支庁に導入するとともに、カーボンニュートラルをイメージしたデザインを車両にラッピングすることにより、県民へのカーボンニュートラル普及啓発に活用しました。



ラッピングを施した電気自動車

オ 宅配ボックス購入推進キャンペーン

- 本県は自動車部門の温室効果ガス排出割合が全国と比べて高い状況です。自動車部門における対策の一環として、「置き配」を推進し、宅配便の再配達による二酸化炭素の排出を抑制する「宅配ボックス購入推進キャンペーン」を実施し、合計88名に2,000円分のQUOカードを贈呈しました。

(2) 担い手の発掘・育成と活躍できる環境づくり

ア やまがたカーボンニュートラル大使の委嘱

- 環境に関心を持つ小・中・高校生が、2050年に社会の中心となることを見据え、カーボンニュートラルについて考え、話し合い、交流するとともに、取組事例や取組の大切さなどを情報発信することにより、カーボンニュートラルの実現に向けた機運の醸成と県民一人ひとりの取組に波及させることを目的としています。
- 令和6年度は、環境に関心を持ち、取組を実践している中・高校生の10グループに「やまがたカーボンニュートラル大使」を委嘱しました。

【やまがたカーボンニュートラル大使一覧】

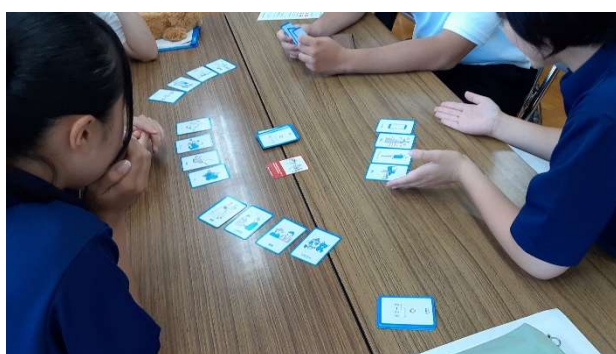
学校名・グループ名	環境学習の概要
鮭川中学校第3学年（鮭川村）	環境問題をテーマとした探究活動
県立山形東高等学校探究部 雪と温泉で発電チーム（山形市）	温度差発電の研究
県立山形東高等学校探究部 バイオマス発電チーム（山形市）	バイオマス発電の研究
県立山形東高等学校探究部 果物皮チーム（山形市）	果物の消費拡大、皮の廃棄量減少の研究
県立山形工業高等学校 機械技術研究会（山形市）	超小型風車におけるブレード形状最適化の研究
学校法人九里学園高等学校 置賜未来創造チーム（米沢市）	気候変動等の探究学習、政策提言
県立酒田光陵高等学校 光陵省エネ電工チーム（酒田市）	太陽光パネルの設置、LEDの設置

県立村山産業高等学校 電子情報技術部（村山市）	太陽光パネルの研究
県立村山産業高等学校 カーボンニュートラルについて考える会（村山市）	カーボンニュートラルの普及啓発、意識醸成
県立長井高等学校 探究科学部（長井市）	地域のサイエンスリテラシーの醸成

イ 高校・大学等を対象とした若者向け環境SDGsワークショップの開催

- 令和2年度より、カーボンニュートラルの実現に貢献できる人材の育成を図るため、山形県民CO₂削減価値創出事業「やまがた太陽と森林（もり）の会」の取組により得られた収益を活用し、若者を対象とした環境SDGsワークショップの開催を支援しています。

令和6年度は、SDGsや地球温暖化、気候変動適応をテーマとして、県内の高等学校14校において合計16回のワークショップを開催しました。



【若者向け環境SDGsワークショップの開催先一覧】

学校名	
県立米沢興譲館高等学校	県立農林大学校
県立新庄神室産業高等学校	県立致道館高等学校
県立東桜学館高等学校	県立山形工業高等学校
県立惺山高等学校	酒田南高等学校
県立寒河江高等学校	県立米沢工業高等学校
県立村山産業高等学校	県立高畠高等学校
山形調理師専門学校	県立小国高等学校

ウ 山形県学生環境ボランティア「やまカボ・サポーター」による普及啓発活動の実施

- 令和4年度より、2050年カーボンニュートラル社会の実現に向け、県民の環境意識の醸成及び普及啓発の担い手の育成を目的に、県内の大学生等を対象に学生環境ボランティア「やまカボ・サポーター」を募集し、研修を通して人材育成を図るとともに、普及啓発活動を実施しています。

令和6年度は、計51名の学生をボランティアとして登録し、「やまがた環境展」をはじめとする県内各地での環境イベント等において、計11回普及啓発活動を実施しました。



キックオフミーティング（研修会）の開催



やまがた環境展での普及啓発活動

エ 環境学習支援団体の認定

- 環境の保全に関する情報の提供や体験機会の提供などを通して、県民の皆さんの環境学習を支援している民間団体を認定し、広く紹介することにより環境学習の機会の拡大を図り、環境保全の意欲増進を図ることを目的として、平成16年度から認定を行っています。
- 令和6年度末現在55団体を認定し、県ホームページ等において各認定団体の活動について紹介しています。

令和6年度新規認定団体	実施概要
株式会社みはらしの丘上山発電所（山形市）	上山市に立地する太陽光発電施設の見学により、太陽光発電の仕組み等について学ぶ

オ 「やまがた木育」の取組

- 平成30年3月に「やまがた木育推進方針」を策定し、「森や自然の大切さを学び、森や木の文化を見つめ直し、森や自然の恵みに感謝し、自然との共生の文化を理解・共感できる豊かな心を育み、森との絆を深め、暮らしの中に木を活かしていくこと」を「やまがた木育」と決めました。

- 令和6年度は、「木育教材」、小学校高学年向け副教材「やまがたの森林」とポケット版教材「森のたんけん手帳」を作成・配布しました。また、「やまがた木育」の指導者を養成するため、やまがた木育人材養成講座（スタートアップ、スキルアップ、ハイパースキルアップ）を開催しました。

このほか、図書館や子育て支援施設等を会場として、普段森林に出かける機会の少ない親子を対象とした本物に触れて学んで創れる「やまがた木育プログラム体験会」を木育教材を活用して開催しました。

【令和6年度実績】

スタートアップ2回（29名）、スキルアップ1回（9名）、
ハイパースキルアップ1回（11名）、やまがた木育プログラム体験会17回（434名）



やまがた木育人材養成講座【スタートアップ】



やまがた木育プログラム体験会

カ 環境保全団体の顕彰

- 県では、地球環境又は地域環境の保全と創造に功績のあった方を顕彰する「環境やまがた大賞」事業を実施しています。令和6年度は、次の2団体が受賞しました。

受賞区分及び受賞者・団体	功績概要
【大賞】 山口 勝美 氏	蔵王山岳インストラクターに29年間以上従事し、蔵王山系の専門家として、自然解説や樹氷復活に向けた取組など豊かな自然を次世代に伝え、県民の行動変容を促す啓発活動を継続して実施
【大賞】 歴史の道土木遺産萬世大路保存会	33年以上にわたり、米沢市万世地区の記念樹である「万歳の松」や、明治14年に完成した米沢市と福島市を結ぶ「萬世大路」を、地区の宝として後世に継承するため、散策路等での環境保全活動や自然学習の機会を提供

(3) 学習機会の充実

ア 環境科学研究センターの環境教育拠点機能の充実

- 本県における環境教育の拠点施設である環境科学研究センターでは、県民による自主的に活発な環境保全活動が展開されるよう、環境教室の開催や教材の貸出を行っているほか、環境アドバイザー等の派遣、水生生物調査への参加呼びかけなどを通じ、環境意識の醸成を図っています。また、県内で行われる環境関連イベントなど環境に関する情報について、ホームページやSNSで発信しています。

(ア) 環境相談の受付・教材の貸出等

- 環境教育に関する相談窓口の設置、環境情報・自然環境棟における環境関連の図書やDVD等の展示・貸出、体験学習の支援など

(イ) 環境教室の開催

- 学校、団体、放課後子ども教室・放課後児童クラブなどを対象とした所内教室・出前講座の実施

【令和6年度実績】 156回（5,883名参加）

《講座例》リサイクル工作、水生生物調査、環境問題の講話



環境教室の様子

(ウ) 環境アドバイザー等の派遣

- 環境やエネルギーに関する専門的な知見を有する環境アドバイザーや地球温暖化防止活動推進員の派遣

【令和6年度実績】 40回（1,802名参加）

《講座例》地球温暖化、脱炭素社会の実現、食品ロス、リサイクル工作

(エ) 親子で楽しむ環境科学体験デー

- 環境月間（6月）推進事業の一環として、環境への関心を深めるとともに、環境科学研究センターの業務や施設を県民に知っていただくことを目的に平成15年度から開催

【令和6年度実績】 6月22日、29日開催（入場者延べ227名）

《実施内容》楯山の自然観察、「色の不思議」や「バスボムをつくろう！」等の科学実験

イ 情報発信の強化

- より多くの県民の方々に環境のことを「自分ごと」として捉えてもらう普及啓発のため、スマートフォン対応のサイト「環境情報やまがた」を運営するとともに、SNS「つながり環境やまがた」にて環境に関する情報を発信しています。

「環境情報やまがた」では、山形県にゆかりのあるYouTuberとコラボした環境啓発動画の配信や環境保全に関する若者と連携した取組、山形県の環境に関するデータなどを提供しています。

(4) パートナーシップの充実・強化

- 環境学習支援団体のほか、環境学習・環境教育に関わる方々を対象に、環境教育を实践するうえでのスキルアップを目指していただくとともに、意見交換を通じた団体との連携強化及びパートナーシップの構築を図り、交流する場として、「環境地域づくり担い手連携推進セミナー」を開催しました。

【令和6年度実績】 21名参加

- ① 講演『いま求められる変容的行動を促す環境教育とは
～ 学校教育と生涯学習で展開するための方法 ～ 』

講師：宮城教育大学教育学部教授 市瀬 智紀 氏

- ② 意見交換